

評価項目	課題・改善策
1 個別の指導計画をチームで検討し、保護者とも共通理解を図りながら作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と十分な共通理解を図る機会と時間の確保が課題。チーム検討して作成したものを家庭訪問時に渡して目を通してもらい、必要に応じて意見や希望、思いを取り入れる流れがいいのではないかな。 ・前後期制になって個人懇談の時期とずれているため、前期は紙面で目標や内容を確認することができなかったが、懇談では目標や内容をより意識して共通理解を図りながら作成していく必要がある。前期の終わりに、「個別の指導計画」について保護者と話す機会がない。 ・昨年度に比べ、特に自立活動について研推自活部からのチェックやアドバイスがあり、より丁寧に細かく検討できた。定期的にチェックする時間を設けることが必要であ
2 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」にそって、幼児生や保護者のニーズに対応しながら、的確で効果的な指導と支援を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Aが大幅減なのが気になる。サポートファイルに記載されていることが幼児生のすべてであるという認識があるかどうかで大きく変わるのではないかな。ファイルにまめに目を通すことが必要である。 ・日々の指導で感じたことや保護者からの意見などを、随時、指導計画と支援計画に反映させてカスタマイズしていく。 ・保護者の希望をもとに支援計画・指導計画を作成しているが、共通理解を日頃から意識して進めていくようにする。
3 個々の課題を明確にして、その実態や課題に応じた指導内容、方法、形態を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動チェックシートの活用により課題は見つけやすくなったのではと思われるが、さらに実用的なものになるようチェックリストを見直していく必要がある。また、目標設定の仕方やそれまでの実態把握については、今後も研修をしていく。例えば、月1回水曜日、30分程度で自立活動チェックシート見直しタイムを設定してはどうか。 ・個別の指導計画の作成・検討については、本校の自立活動チェックシートの活用を含めて実態把握を行っていく。また、専門機関(大学や岡本病院等)と連携し、様々な視点から実態を把握する。 ・実態把握をもとに、まずは自立活動の中心的課題・指導目標の設定を行い、各教科等との関連を図る。 ・必要であれば、校内研修や職員会議の中で時間を30分程度設定し、自立活動の中心的課題や指導目標について全職員で検討する時間を設ける。 ・CCQ(近くから、穏やかに、静かに)を意識することや、個々の実態に応じた課題や目標を学部会で共通理解して進めていく。 ・個々に行っている指導内容や方法、あるいは工夫等が学部内で十分に共有できていない面がある。学部会、学部内ミニ研修の機会を持って指導方法や工夫を共有し高めていく。
4 自立活動の指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、学校生活全体で指導(日常生活の指導と重なることもある)できた(着替えや整理整頓、人との距離、声の大きさなど)。 ・岡本病院PT・OTとの学習会に関しては、昨年度1回ずつだったものを2回ずつに増やして実施することができた。個別に見ていただくだけでなく、全体でも研修できる形にできないか検討中である。 ・今年度、研究に外部機関の先生に入って見ていただくことができなかった。次年度、入っていただく先生はすでに検討しており、今年度中に調整予定である。 ・年度当初の計画にはなかったが、武庫川女子大学橋詰和也先生に教育相談に来ていただけることになった(2月14日予定)。積極的に様々な大学や関係機関とのつながりをつくっていきたい(行き当たりばったりにならないよう、継続して見ていただけるような見直しをもって)。 ・自立活動学習会や岡本病院学習会、教育相談を計画し、事例検討や実技を中心とした研修を行う。 ・校務分掌を研究部と自立活動部に分け、自立活動部として自立活動の充実に向けた取り組みを進めていくことが必要である。 ・今年度、生徒の実態に応じてグループ自立活動の時間を確保しながら進められたことはよかった。しかし、生徒個々の自立活動の時間が不十分だった。学校、学部行事や他の授業の事前、事後の取り組みにかなりの時間がとられる現状がある。事前の計画的な時間配分、設定を行う。
5 ねらいや目的を明確にした学校行事・学部行事・校外学習を行い、個々の成長につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに該当する学習の際に、再度ねらいを確認してから活動するなどの細かい工夫はまだ改善の余地がある。 ・修学旅行などの大きな行事は、ねらいや目的を明確にして事前学習や振り返りができた。実態に合わせてできる範囲でしていく。 ・各学年の校外学習が、3年での修学旅行に向けての取り組みにつなげることができた。計画段階から、最終目標を念頭に計画と準備をすすめる。
6 委員会活動を中心に、自治活動を活発にし、児童生徒会活動の充実に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、改善→定着してきていると思われる。担当教師全員で委員会内の業務を分担する形を継続していきたい。 ・それぞれの委員会で児童生徒は一生懸命に活動できていた。実態に応じて、これまでの取り組みに自治的な活動をもう少し加えていきたい。

7	地域の教材や人材を積極的に活用して、ふるさと教育をはじめとする体験的学習を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元IT企業の協力を得てeスポーツ大会を初めて開催した。とても盛り上がり来年度への継続開催準備もできた。 ・マエストロ足立さんによる授業、チルミューや冒険村での活動、老人会の方々との花いっぱい運動などに取り組めた。 ・黒枝豆の植え付けにJAの方に来ていただいたり、紙飛行機作りに地域の方に来ていただいて体験活動ができた。 ・地域の団体や活動されている人たちとつながって活動を進められた(いずみ会、たまみずカフェ、フラワーアート、王地山焼など)。
8	基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の意識や整理整頓、あいさつなどの指導と支援ができた。 ・チャイムがなくても、高学年は個々の実態に応じて時間を意識して生活できるように指導できた。 ・家庭での生活習慣や生活リズムが大きく影響し、連携して取り組むことが難しい面があった。
9	作業学習、職場・施設実習、自然体験等を中心に、体験的な学習の充実に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・事業所の本校生徒への理解・支援のおかげで高等部現場・施設実習が実施できている。 ・自然体験活動は、中学部と小学部の子どもたちのよい活動になっている。 ・作業学習指導に必要な専門性を身につけたり、技術を向上させるための研修が必要である。
10	外部関係機関との連携を密にして、一貫性のある進路指導ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉課やハローワーク、生活支援センター等関係機関との連携のもと、高等部卒業と社会との接続がスムーズにできている。 ・進路担当だけでなく、高等部教員も企業や福祉などの進路に関わる関係機関について知る必要がある。
11	学校事故や災害時等の緊急事態発生時の対応・体制づくりが図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルはあるが、項目の整理が必要である。 ・マニュアルの設置場所の周知徹底が必要。 ・マニュアルに基づいたシミュレーションをしていない。
12	定期的な安全点検の実施、施設・設備の安全管理が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、電子化された安全点検表を使用して毎月の安全点検をしていく。
13	シミュレーション研修、救急法の研修等、関係諸機関と連携して、教職員の実践的な研修や訓練ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・学部や学部間で救急体制シミュレーション研修を行い、実際の動きやアクションカードの使い方を確認するなど、実践的な研修ができています。 ・消防署と連絡調整し、できるだけ早い時期に実施ができています ・今後も実技を含む防火防災、防犯の研修を継続する。
14	保護者や関係機関との連携を図り、適切な医療的ケアや保健指導が推進できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・Sさんについて登校の漸増が安全に進められ、週5日登校となった。 ・Mさんに高等部教諭が交替で支援することで、中学部に引き続き、学部内での生徒理解や医ケアに関する理解が進んだ。 ・校内での連携を密に行い、保護者や関係機関と連携しながら、医ケア児が安全に在籍し活動できるように推進していく。
15	教職員もPTA活動に参画し、充実に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの都合に応じて、最大限に参画できた。
16	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・改善されてきていると言える。50周年事業に向けて、同協議会を中心に、多くの職員にとって「見える」「自分も関わった」活動があったことがその根拠として考えられる。
17	特性を踏まえたきめ細かな生徒指導が、全職員共通理解のもと推進できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが、こころ豊かで自立した生活を送るためにも、日ごろから教職員が常に子どもの手本となって生活ができるようルールやマナー等の規範意識を高める。 ・教職員による「トイレの使用後は電気を消す」や「スリッパや靴を並べる」等のマナーが、守れていなかった場面がみられた。 →生徒指導のあり方として、学校ルールシート(教職員行動指針全35項目)には、No14「トイレの使用後は電気を消す」、No15「あるべき物があるべき所に」を含み、ほとんどが直結する重要なことが書かれている。子ども一人ひとりが、こころ豊かで自立した生活を送るためにも、まずは我々が再度「学校ルールシート」の確認と徹底

18	特別支援教育研究者や福祉関係者との交流・研修を行うことで、高い専門性を追求している。	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は評価が下がったことになる。昨年度のこの欄には、「一昨年度末ならびに昨年度末の学校評価結果をもとに、研修内容についてのニーズの検証をしてその結果を研修実施に活かすという改善策を立て、そのように実践した本年度だった。」「学校が主体となった研修会が積極的ではないということであれば、回数を増やすことが必要になるが、それはそれで『研修が多い。』という声に対峙することになる。皆さんはそのあたり、どのようなバランス感覚でおられるだろうか。」と記載している。その流れの中でのR6研修会実施だと把握しているが、職員の意識としてはAが減少し、Bが増加した。項目の最後に「高い専門性を追求している」というフレーズがあるが、その部分への自己評価がAではなくBとなっているのだろうか。 ・専門性を高めていくためには、あてがわれた(=学校等が準備した)機会だけではなく、各自が自分の興味関心に基づいて、学校の動きとは違う研修を体験することも大切だと考える。そのような研修会の告知(例:心理リハビリ等)も積極的にしている。
19	教職員の資質や専門性の向上を図るため、計画的な校内研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動学習会・岡本病院学習を開催し、事例検討を中心とした全体研修も行い、さらなる充実を図る。 ・今年度同様、各部会等から希望をとって令和7年度の研修を計画する。
20	継続的にキャリア教育の研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の研修は、今年度は実施していない。3学期中に来年度の校内研修の希望調査を行う。今のところ、研推自活部では、自立活動を中心とした研修会をいくつか計画している。キャリア教育についての研修を希望される場合は、校内研修の希望調査の際に各部会・担当等から挙げてもらいたい。
21	研究テーマに沿って、授業力向上に向けた授業研究ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・常に意識していたわけではないため、主体的とは言えない。 ・来年度の研究テーマにもよるが、今年度のテーマを引き継ぐ形であれば、個別の指導計画の指導目標等をもとにした自立活動の授業を各学部で公開する。 <ul style="list-style-type: none"> － 小学部1～2本、中・高等部1本 － 講師:橋詰和也先生・瀬戸山悠先生 ・2本の研究授業について、グループに分かれて事前研修などの授業研究ができた。
22	個々の課題や目標を明確にし、教職員のライフステージに応じた研修ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の意識に委ねる部分が多いため、学部での振り返りは難しい。 ・学部内や支援部の協力で、できるだけ個人の研修確保に努めた。課題意識や目標はあるが、通常時間割の中で研修に行くことは難しい。
23	教育活動全体の中で、相手を思いやる心を育て、生命の尊厳や人権尊重の精神を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でする、協力し合うことを指導できた。 ・高学年は友達を意識した声掛けを行うことができた。 ・道徳の授業や日常生活の中で指導している。 ・Aが昨年度と比べると大幅減。各学部で道徳年間指導計画を作成する際に、実態に応じた内容や方法になるように作る必要がある。
24	発達段階に応じて、情報モラルの教育に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の研修を行うことで、特別支援学校教職員の情報に対する資質向上を図った。研修の内容を実践しようとする職員もいたため、継続していきたい。 ・12月に、児童生徒を対象にドコモネット安全教室を行い、情報モラルについての学習を行った。 ・来年度、5～6月に情報委員会各学部の実態にあった授業を行う検討をしている。 ・知的に重度な幼児生が使えるコグトレソフトを導入予定。使用していく中で、使い方やルールなど情報モラルについて学ぶ機会にしたい。
25	給食指導を中心に、家庭と連携した食育の充実が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食育相談会では、希望者を優先して幼児生への給食指導の日程を組むことができた。保護者に相談内容を具体的に事前に記入してもらい当日の相談がスムーズにでき、家庭と連携して対応の方向性を考えることができた。 ・コロナの心配もなくなったので、来年度は希望があれば各教室での給食指導の前に短時間で咀嚼や、箸の持ち方等食べ方の指導を実施する計画である。 ・統合され人員配置が減り食育相談を1回、摂食指導が1回にしたが問題なく実施できた。 ・摂食指導学習会では、STの先生から専門的な指導助言を受けることができた。 ・給食講演会・試食会では、給食センターの様子を映像で見たり、実際の配膳や試食をしたりすることで、保護者に栄養バランスの理解を深めてもらうことができた。バザー値付け日と同日で保護者が参加しやすく、意見を聞くことができた。パンの試食を望まれる声があり、来年度は木曜日の設定をしてもよい。
26	居住地、隣接校交流及び共同学習は、連携を深め、ねらいや活動内容を明確にした交流、共同学習となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流、隣接校交流を継続して取り組み、保護者の願いをくみ取りながら幼児児童生徒同士の交流や学校間での連携を深めることができた。

27	発達段階に応じて、安全教育・保健指導を実施し、安全で健康な生活が出来る基礎的な能力を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部や個に応じた内容・方法で、保健指導に取り組んでいる。本年度は高等部3年生を対象に、卒業に向け歯科衛生士から歯磨き指導を実施できた。 ・幼少期から継続した指導ができるよう、学部や担任の先生方と連携を進めたい。 ・安全教育については、体系的にとまではないが、必要に応じて取り組んでいるのではないかと感じる。日々の指導の中には、ことさら安全教育・保健指導と意識、自覚していないレベルのものもあると感じる。 ・ヒヤリハット、インシデントの報告が躊躇なくできる職場環境の維持が大切。
28	学校教育目標・指導の重点を意識し、その具現化に向けて取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題があると考えるのが妥当である。A+B=98%であることから、一定の成果はあるとみなしてよいが、Aを増やしていくための方策を考える必要がある。 ・今やっていること(教育活動)が、教育目標や指導の重点の「どの部分」に関係しているのかを、担当者が意図的にアナウンスすることが求められる。
29	各種委員会・各部会の組織を強化し、学校運営の活性化に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より2つの委員会が統合したが、少人数なりに業務の分担を明確化しつつも、必要な際には専門的な意見も聞くなど、部としてバランスの良い運営ができた。 ・ただ、センター提出後の書類訂正をすぐに対応できる職員が、給食事務を担当できると安心である。また、給食センターへ直接注文できる市全体のシステム化が進むと職員の負担や注文の間違いも減ると思われる。 ・短縮授業期間を増やし下校時間を早めることで、幼児生と教職員ともに時間的余裕を生み出すことができた。来年度も継続して、教育課程改編を行う。一方で、校務支援システム導入にともなう混乱が予想される。その混乱ができるだけ少なくすむよう、年度末に向けて準備を進めていく。
30	学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・意識して取り組んでいる。 ・アンケートや自己評価から成果、課題、改善策を検討できた。 ・引き続き、業務の無駄と非効率の削除に努める。 ・部と委員会の仕事が同時期に重なることがあったが、解消された。体制としてすっきりしている。一方で、部の人数が減り、同窓会のようにまわらなくなった業務もある。
31	定期的な学校だより・学部通信等の発行、HPの内容の更新など、保護者や地域への情報発信ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も十分に評価される内容だったと言える。来年度もこの状況を継続することが大切である。
32	市内の学校園に対して、専門的な支援や助言を行うなど、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に達成できているとみなしてよい。 ・センター的役割については、長年本校独自の教育相談体制として伝統的に行ってきた経緯がある。以前は、現在の教育研究所のような市立の相談機関がない状況で、ささよう教育相談(=学びサポートルーム)が一手に担ってきた。近年、市の機関に市費相談員が次のように配置されてきた。週1日配置(1人)→週2日(2人)→週3日(2人)。しかしながら、それによって、「学びサポートルーム」への依頼が減ったかというとその逆であり、年々増加の一途をたどっている。検査依頼だけではなく、検査を含まないコンサルテーション、発達支援・生徒指導・学級指導ジャンルのケース会議(子ども個人、集団)も増加している。
33	ケース会議、研修会、各種行事等を活用して、外部関係機関との情報共有化を図り、連携強化に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も高い達成率を示している。外部機関との連携強化については、この2年間で一定の方法・流れ・習慣ができあがってきたのではないかと感じる。今後もこの流れを継続していく。
34	学校予算の適正な計画・執行、備品や施設の管理及び充実・改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部、委員会からの意見集約を図り、予算の計画的な執行と備品の充実に努めることができた。特に、自立活動助成金については、昨年度より積極的に活用することができた。教材費については、各学部の会計担当者を決め、校内で複数の者による管理体制を整えることができた。購入した備品については、担当者と連携し、おおむね適切な管理ができた。
35	勤務時間を意識して取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日を5校時で終了して下校時刻を早めたことや、その他にも浸透してきたことがあると推測されるが、まだ不十分だと感じている職員の割合が一定数あるのが現状である。 ・放課後の業務時間を今以上に確保することが必要である。
36	学校ルールシートを意識して、教育活動や業務に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新たに追加した項目。CD評価の人がいることから明らかに形骸化していると思われる。項目が多すぎるのではないかと感じる。職員室モニターに表示することと職朝で紹介することは継続していいが、項目を重要度が高い10個程度にしぼってみてはどうか。